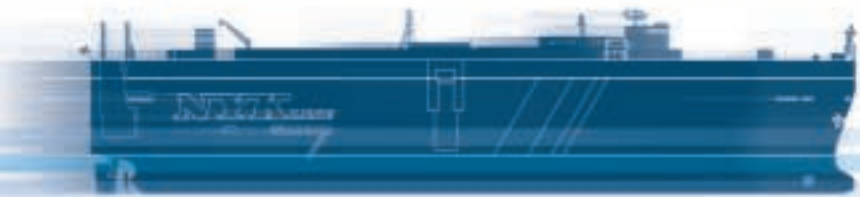
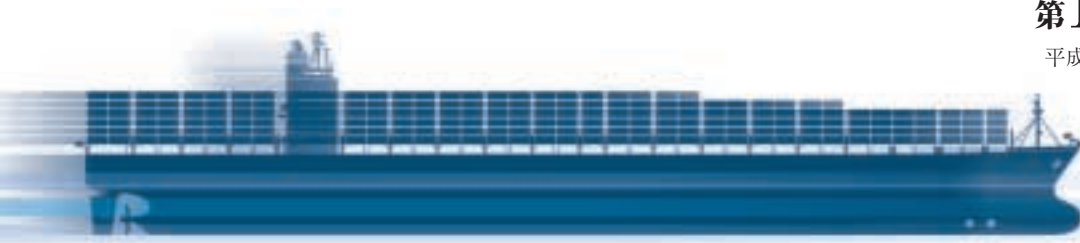


**第118期 中間報告書**

平成16年4月1日～平成16年9月30日



## 日本郵船企業行動憲章の改正

■ 当社は、平成9年制定の企業行動憲章を、その後の当社を取り巻く環境の変化に鑑み、主に企業の社会的責任及びセキュリティ対策強化の観点から、平成16年8月に改正しました。当憲章の精神を実現すべく、日々努めてまいります。

## 企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)と 社会的責任投資インデックスへの採用

■ 本年4月にCSR室と同時に開設した社会貢献準備室を、本年10月、コーポレート・シティズンシップ・オフィスと改称し、社会貢献活動を担う専門部署として設置しました。地球社会とともに生きる「よき企業市民」として、すべてのステークホルダーにとっての企業価値の向上を目指すことを基本理念とし、主体的に社会的な活動に取り組みます。

また、当社の地道な安全・環境への取り組みやコンプライアンス態勢などが評価され、国際的な社会的責任投資インデックスであるDow Jones Sustainability World Index及びFTSE4Good Global Indexの投資対象銘柄に継続して採用されています。



## 日本郵船企業行動憲章

当社は、1885年の創立以来、幾多の困難を乗り越えて、世界海運のリーダーとして健全なる発展を重ねてきた。

当社は、世界経済・文化の発展の礎として、人及び物の広汎な交流の重要性を認識し、安全かつ高品質なサービスの提供にまい進するとともに、総合物流事業者及び客船事業者として時代の要請に沿ったサービス向上に向けて、たゆまぬ研鑽に励み、また、市民社会の一員として人権を尊重し、法に適合するのほもとより、社会倫理規範に則った経営を営むことにより、持続可能な社会の発展に貢献しようとの認識のもとに、ここに「日本郵船企業行動憲章」を定める。

### 1. 社会的使命

総合物流事業及び客船事業に課せられた、安全かつ高品質なサービスを提供するとの社会的使命を自覚し、お客様の要望に謙虚に耳を傾け、その期待と信頼に応え、公正な企業運営を通して適正な利潤を確保し、株主に報いるとともに、ステークホルダーとの対話を通して、社会の発展に貢献する。

### 2. 船舶安全運航と地球環境の保全

船舶の安全運航を最重要課題と認識し、国際的安全基準に基づく安全対策の充実及び強化を図るとともに、安全運航技術の向上のために研鑽する。

海洋を地球の貴重な財産と認識し、環境方針を定め、海洋汚染の防止及び良好な地球環境の保全に努める。

### 3. 保安体制の強化

非合法活動による国際物流ネットワークの遮断や悪用、また当社が所持する情報への不正なアクセス及び漏洩などを防止するため、保安の確保とその維持に努める。

### 4. 諸法令の遵守

企業は社会の一員であることを自覚し、正義と公正を旨として、法令遵守はもとより、地域の善良な文化や慣習を尊重し、善良なる社会倫理規範にもとることのない企業活動を遂行する。

### 5. 反社会的勢力の排除

市民生活の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは、断固として対決する。

### 6. 情報開示と社会とのコミュニケーション

積極的に、適時に適正な企業情報を開示し、広く社会とのコミュニケーションを図る。

### 7. 良好な職場環境の保全等

社員の多様性、人格、及び個性を尊重し、良好な職場環境の保全に努める。

経営者は本憲章の精神の実現を自らの役割と認識して率先垂範し、社内には徹底するとともに関係先へ周知し、実効ある社内体制を整備する。また、万一、法令違反や不祥事、その他本憲章に反する重大な事態や緊急事態が発生した場合、経営者は迅速かつ的確に原因究明と問題解決に努め、さらに再発防止に責務を負う。

## 社長メッセージ

社長に就任して半年が経ちました。  
来年創業120周年を迎えるNYKグループを率いるに  
あたっての目標と抱負を表明いたします。

**Q:** 企業活動を展開する上での社会的責任  
(Corporate Social Responsibility, 略してCSR)  
について、どう考えていますか？

**宮原:** CSRは経営の根幹であるとの認識を社内外に周知徹底するため、本年4月1日付でCSR室を立ち上げました。従来からの各部門の様々な活動を組織化して推進することが、より効果的な取り組みとなり、ひいては企業価値の向上にもつながると考えています。

まず、船舶の運航をはじめ安全かつ優良なサービスの提供は当社事業の原点であり、今後とも万全の体制で取り組みます。そして、コンプライアンスのさらなる徹底、より効率的で健全な企業統治の追求や内部統制の実効性強化、環境問題への積極的な取り組みなどに引き続き努めていく所存です。また、当社における社会貢献活動を担う専門部署として、10月1日付でコーポレート・シティズンシップ・オフィスを設立しました。役員や従業員の自発的な草の根社会活動を推進することで地域社会との共生を目指します。

当社は、国内外のステークホルダーの皆様方との双方向の積極的なコミュニケーションを通して、新しい視点や価値観を学びながら、今後とも、経営の透明性の向上に努めるとともに、当社のあるべき姿を常に模索していく所存です。

**Q:** 当中間期における業績の現況と今後の見通しは  
どうなっていますか？

**宮原:** 特に米国の順調な景気回復と中国での需要拡大を



代表取締役社長 宮原 耕治

受け、海運業全般にわたり活発な荷動きと堅調な海運市況が続いているなか、当社をはじめグループ各社へのコスト削減活動の浸透もあって、当中間期においては、期初予想を上回る実績を達成しました。コンテナ輸送部門においては、主要航路の好調な荷動きと船舶需給の引き締まりを背景に収益が拡大しました。バルク輸送部門でも好市況を反映し、収益を伸ばしました。自動車輸送部門とエネルギー輸送部門も安定した成果を収めています。物流事業をはじめとする非海運業も、ほぼ計画どおりの業績となりました。

海運好市況は下期も継続する見通しですが、それに甘んじることなく、さらにコスト削減を推進するとともに新たなニーズを追求し、持続的成長に向けた企業体質の強化を図ります。

**Q:** 中長期グループ経営ビジョン“Forward 120”も残すところ半年になりました。進捗状況と次の目標について教えてください。

**宮原:** まず、“Forward 120”で掲げた2005年3月期のすべての数値目標、すなわちNYKグループ連結売上高1兆3,600億円、事業利益980億円、経常利益775億円、税引後投下資本事業利益率6%を達成する見込みです。“Forward 120”における三大戦略、(1)総合物流事業の拡大、(2)バルク・エネルギー輸送の世界展開、(3)コンテナ輸送部門の収益安定化のいずれにおいても

■ 2005年3月期の連結財務数値目標

売上高	13,600億円
事業利益（営業利益+受取利息及び配当金）	980億円
経常利益	775億円
税引後投下資本事業利益率 （税引後事業利益/投下資本（有利子負債+株主資本））	6%

着々と成果をあげ、来年10月に創業120周年を迎えるNYKグループのさらなる成長の土台をしっかりと築きあげることができました。

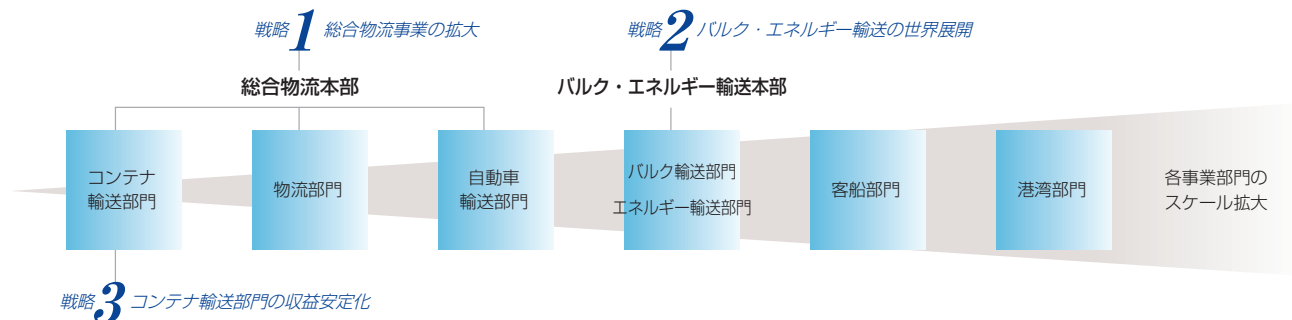
次の目標は、この4月に社長に就任して初めて私が先頭に立って指揮することになる2005年4月から2008年3月までの3年間にわたるNYKグループの新中期経営計画です。すべての役員・従業員が策定作業に参加し、全員で共有できる経営計画に練り上げていく方針です。新中期経営計画は3年先の2008年3月をゴールとしますが、さらにその先2010年あたりを見据え、長期的な視野に立って検討したいと考えています。

**Q:** 社長の理想とする企業文化について聞かせてください。

**宮原:** 明るい希望の溢れる企業文化を創造したいと思っています。「一日、さらには一生のうちの多くの時間を過ごす職場が、暗くつまらないものではたまったものではない。」と、私はいつも思っています。もち

# NYK21 Forward 120

もっともっとグローバルに、もっともっと現場へ



ろん誰にも仕事の壁にぶつかって苦しい時はありますが、お互いに声を掛け合って助け合いながら乗り切っていくような、明るく働き甲斐のある企業グループを目指していこうと思います。

まず、私からグループ全体の雰囲気を作り明るく活気のあるものにすることに努めます。従業員には、常にコミュニケーションを怠らず、部門の壁や言葉の壁をすべて取り払うとともに、変革を志し、新しい価値の創造を追求することを求めたいと思います。こうした企業文化が根付いてこそ、ごく自然に、多様性を尊重し透明性とフェアネスに留意した企業活動が行われ、柔軟で活力ある誠実な企業グループとなることができると考えています。

**Q:** 最後に、NYKグループの人材にどのような資質を求めていますか？

**宮原:** NYKグループの従業員に求める資質として、主に次の3つが挙げられます。

まず、異文化や異質な考え方に対する包容力や柔軟性が一番大切な資質と考えます。グローバルに事業が拡大し、多様な国籍やバックグラウンドをもつ従業員そして取引先などステークホルダーが急増するなかで、どこでも誰とでも一緒になっていきいきと働いてもらいたいと思います。次に、明確な目標を自ら設定し、周囲を引っ張っていくリーダーシップです。最後に、専門分野に止まらず広い視野を持って全般的な管理業務もこなせるマネジメント能力です。NYKグループが、世界的規模でのグループ経営や事業展開をさらに加速し、国際競争に打ち克つためには、組織の一人一人に常日頃から研鑽してもらいたいと思っています。

実際のところ、人間の能力にはそんなに大きな差はないと思います。仕事の与え方や取り組ませ方



代表取締役社長 宮原 耕治

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当中間期の好調な業績の成果を株主の皆様へ還元すべく、一株につき7円50銭の中間配当を実施いたします。また、年間配当は、一株につき前期比5円の増配となる15円を予定しております。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第で力量の伸びは大きく変わるものです。肝心なのは、育て方や経験の与え方です。すなわち、人材育成において一番求められているのは、如何にしてやる気を起こさせるか、また、どうやってその潜在能力を引き出せるか、さらには、失敗を恐れずに挑戦させられるかに尽きるのではないかと考えています。

平成16年12月

代表取締役社長

宮原 耕治

# NYKグループ 総合物流企業グループとしての変革を続け、さらなる成長を遂げていきます。



## 海運業

(億円) 平成16年 9月中間期 平成15年 9月中間期

売上高	4,943	4,375
営業利益	701	466
経常利益	686	399



## 物流事業

(億円) 平成16年 9月中間期 平成15年 9月中間期

売上高	1,646	1,354
営業利益	30	10
経常利益	29	10



## 客船事業

(億円) 平成16年 9月中間期 平成15年 9月中間期

売上高	147	118
営業利益	△ 35	△ 43
経常利益	△ 40	△ 48



## ターミナル関連事業

(億円) 平成16年 9月中間期 平成15年 9月中間期

売上高	545	485
営業利益	21	3
経常利益	2	△ 2

### 外航・沿海貨物海運業

- 当社
- NYKグローバルバルク (株)
- 東京船舶 (株)
- 日之出郵船 (株)
- 近海郵船物流 (株)
- 八馬汽船 (株)
- 旭海運 (株)
- NYK REEFERS LTD.

### 船舶貸渡業

- ALBIREO MARITIMA S.A.

### 運送代理店業

- NYK LINE (NORTH AMERICA) INC.
- NYK LINE (EUROPE) LTD.

- 当社
- 郵船航空サービス (株)
- (株) ジェイアイティー
- (株) ユニエツクス
- 郵船港運 (株)
- 旭運輸 (株)
- GST CORPORATION
- NYK LOGISTICS (UK) MANUFACTURING & RETAIL LTD.
- NYK LOGISTICS (UK) CONSUMER & RETAIL LTD.
- YUSEN AIR & SEA SERVICE (USA) INC.

- 郵船クルーズ (株)
- CRYSTAL CRUISES, INC.

- 当社
- (株) ユニエツクス
- (株) ジェネック
- 日本コンテナ・ターミナル (株)
- 日本コンテナ輸送 (株)
- 旭運輸 (株)
- YUSEN TERMINALS INC.
- NYK TERMINALS (NORTH AMERICA) INC.



## 海運周辺事業

(億円)	平成16年 9月中間期	平成15年 9月中間期
売上高	209	207
営業利益	△3	△0
経常利益	△1	1

### 曳船業

- (株) 日本海洋社

### 機械器具卸売業（船舶用）

- 郵船商事（株）
- 三洋商事（株）



## 不動産業

(億円)	平成16年 9月中間期	平成15年 9月中間期
売上高	59	65
営業利益	15	15
経常利益	18	18

- 当社

- 郵船不動産（株）



## その他の事業

(億円)	平成16年 9月中間期	平成15年 9月中間期
売上高	494	494
営業利益	△2	△8
経常利益	6	△0

### 情報処理サービス業

- (株) エヌワイケイシステム総研

### 石油製品卸売業

- 郵船商事（株）

### 旅行業

- 郵船トラベル（株）

### 航空運送業

- 日本貨物航空（株）

※グループ内部売上高消去前の数字です。

※主なグループ会社を記載しています。  
※郵船航空サービス(株)はJASDAQ市場  
に上場しています。

■ 連結子会社

■ 持分法適用関連会社

NYKグループは、常にお客様の信頼を獲得すべく、安全かつ高品質なサービスを追求し続けてきました。その結果、世界でも有数の大規模船隊と「海・陸・空」に広がる国際輸送網を駆使し、LOGISTICS & MEGACARRIERならではの輸送サービスを実現するに至っています。世界の荷動きはこれからも複雑・多様化し、世界中をいっそう自在かつ迅速に行き交う物流サービスが求められるようになります。NYKグループは、より多くのお客様に、より多様な満足をお届けすることを目指して、海運業の強化、そして総合物流企業グループとしての変革を続け、さらなる成長を遂げていきます。

■ グループ従業員数：21,921名

■ グループ運航船舶数：621隻 34,899,296重量トン（K/T）

# 平成16年9月中間期の連結業績

## 連結業績の概況

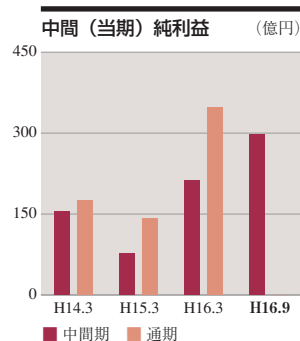
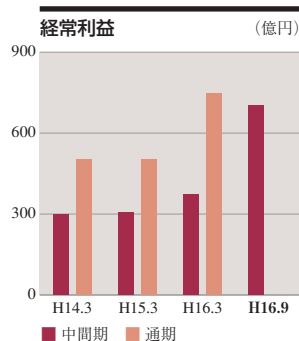
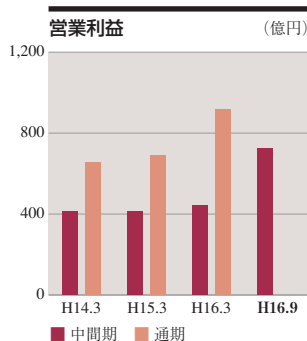
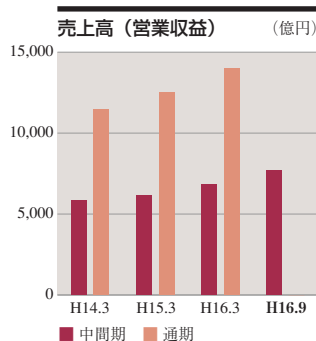
当中間期（平成16年4月1日から9月30日までの6ヶ月間）の連結業績は、売上高（営業収益）7,681億円（前中間期比13.0%増）、営業利益726億円（同63.5%増）、経常利益703億円（同88.2%増）、中間純利益297億円（同39.9%増）となりました。本業績は、本年5月に発表した中間期業績予想（売上高7,200億円、営業利益540億円、経常利益470億円、中間純利益170億円）をいずれも上回っており、過去最高です。

海運業は各分野とも総じて好調でした。コンテナ輸送部門は各航路とも荷動きが活況を呈し運賃修復が進みました。自動車輸送部門は堅調に推移、バルク輸送部門は好市況を享受、エネルギー輸送部門も順調に稼動しました。物流事業は日本発着の航空貨物が好調、海外の現地法人では収支改善を進めています。客船事業は日本マーケットが回復基調ですが、米国マーケットは回復に至っていません。ターミナル関連事業は取扱量が順調に推移しました。

下期は円高・燃料油価格高などのコスト増加要因もありますが、通期の連結業績の見通しは、売上高15,400億円、営業利益1,500億円、経常利益1,400億円、当期純利益630億円を予想しております。

## 連結貸借対照表の要旨

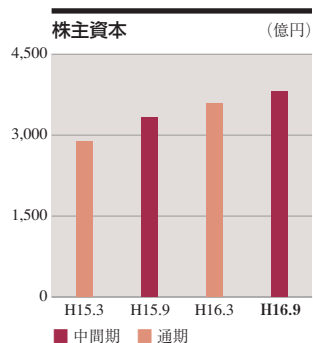
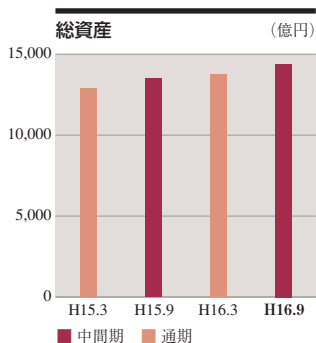
	当中間期 平成16年9月30日	前期 平成16年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	388,984	370,673
現金及び預金	72,319	65,373
受取手形及び営業未収金	177,965	167,868
その他	140,580	139,232
貸倒引当金	△1,880	△1,800
固定資産	1,050,250	1,005,852
有形固定資産	693,189	652,405
船舶	465,930	445,383
建物及び構築物	65,432	68,396
土地	58,703	66,263
その他	103,123	72,361
無形固定資産	30,297	28,575
投資その他の資産	326,763	324,872
投資有価証券	257,318	263,584
その他	71,721	63,287
貸倒引当金	△2,275	△1,999
繰延資産	219	137
資産合計	1,439,454	1,376,664





(単位：百万円)

	当中間期 平成16年9月30日	前期 平成16年3月31日
<b>負債の部</b>		
流動負債	489,748	425,753
支払手形及び営業未払金	143,888	136,674
社債短期償還金	34,999	20,200
短期借入金	165,531	143,048
前受金	50,280	37,155
その他	95,046	88,675
固定負債	540,898	569,196
社債	106,800	101,797
長期借入金	359,015	389,435
その他	75,082	77,963
負債合計	1,030,646	994,950
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	27,082	23,669
<b>資本の部</b>		
資本金	88,531	88,531
資本剰余金	94,421	94,421
利益剰余金	170,952	146,755
<sub>その他有価証券評価差額金</sub>	43,720	44,333
為替換算調整勘定	△ 12,670	△ 12,900
自己株式	△ 3,228	△ 3,096
資本合計	381,726	358,044
負債、少数株主持分及び資本合計	1,439,454	1,376,664

**連結損益計算書の要旨**

(単位：百万円)

	当中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日	前中間期 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日
売上高（営業収益）	768,179	680,029
営業費用	695,500	635,590
営業利益	72,678	44,438
営業外収益	6,882	6,433
営業外費用	9,249	13,509
経常利益	70,311	37,362
特別利益	6,942	4,037
特別損失	26,708	5,529
税金等調整前中間純利益	50,544	35,871
法人税、住民税及び事業税	25,069	19,204
法人税等調整額	△ 5,992	△ 5,558
少数株主利益	1,694	938
中間純利益	29,772	21,286

**連結キャッシュ・フロー計算書の要旨**

(単位：百万円)

	当中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日	前中間期 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	68,635	54,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 69,662	△ 48,564
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,796	△ 22,448
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	716
現金及び現金同等物の増減額	5,813	△ 16,023
現金及び現金同等物期首残高	63,632	79,804
連結範囲変更による現金及び 現金同等物の増減額	1,355	4,512
現金及び現金同等物中間期末残高	70,800	68,293

# 平成16年9月中間期の単体業績

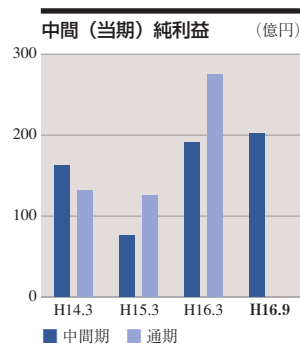
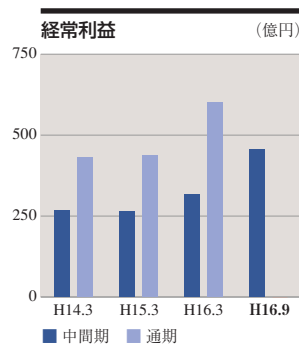
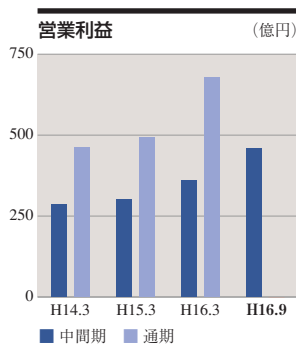
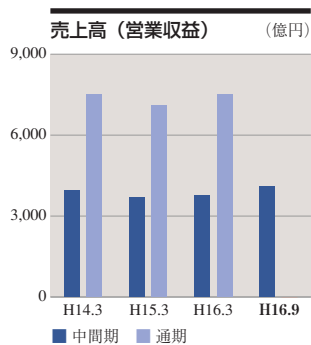
## 単体業績の概況

当中間期（平成16年4月1日から9月30日までの6ヶ月間）の単体業績は、売上高（営業収益）4,091億円（前中間期比8.8%増）、営業利益458億円（同27.5%増）、経常利益456億円（同43.7%増）、中間純利益202億円（同5.7%増）となりました。本業績は、本年5月に発表した中間期業績予想（売上高3,800億円、営業利益340億円、経常利益330億円、中間純利益160億円）をいずれも上回っており、過去最高です。

上期は、海運業のコンテナ輸送部門、自動車輸送部門、バルク・エネルギー輸送部門がいずれも好調でした。下期は円高・燃料油価格高などのコスト増加要因もありますが、通期の単体業績の見通しは、売上高8,150億円、営業利益920億円、経常利益950億円、当期純利益470億円を予想しております。

## 貸借対照表の要旨

	当中間期 平成16年9月30日	前期 平成16年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	194,056	172,070
現金及び預金	9,030	11,021
営業未収金	54,722	52,061
その他	144,221	125,584
貸倒引当金	△ 13,916	△ 16,597
固定資産	691,204	680,828
有形固定資産	180,465	189,566
船舶	116,664	117,309
土地	32,565	39,647
その他	31,235	32,609
無形固定資産	13,528	10,892
投資その他の資産	497,210	480,369
投資有価証券	223,383	228,110
子会社株式及び出資金	139,638	129,901
その他	144,841	130,181
貸倒引当金	△ 10,652	△ 7,824
繰延資産	217	134
資産合計	885,479	853,032



(単位：百万円)

	当中間期 平成16年9月30日	前期 平成16年3月31日
<b>負債の部</b>		
流動負債	220,387	190,186
営業未払金	54,569	47,944
社債短期償還金	34,000	20,000
短期借入金	36,624	40,178
その他	95,193	82,062
固定負債	334,277	345,762
社債	106,800	100,800
長期借入金	197,086	207,802
その他	30,390	37,159
負債合計	554,665	535,948
<b>資本の部</b>		
資本金	88,531	88,531
資本剰余金	93,198	93,198
利益剰余金	110,879	96,797
株式等評価差額金	41,418	41,639
自己株式	△ 3,213	△ 3,081
資本合計	330,813	317,083
負債及び資本合計	885,479	853,032

## 損益計算書の要旨

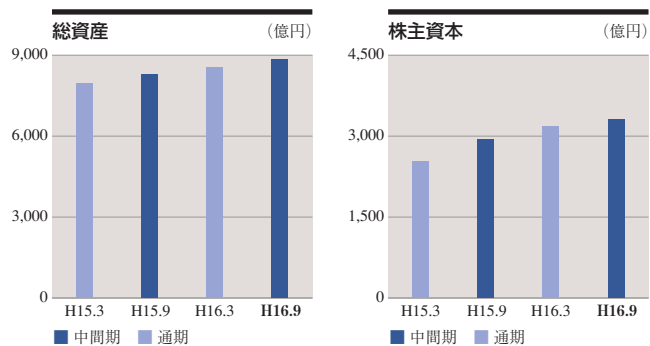
(単位：百万円)

	当中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日	前中間期 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日
売上高（営業収益）	409,130	376,119
営業費用	363,263	340,149
営業利益	45,867	35,969
営業外収益	4,782	3,467
営業外費用	5,010	7,685
経常利益	45,638	31,752
特別利益	3,482	2,481
特別損失	17,952	2,676
税引前中間純利益	31,169	31,557
法人税、住民税及び事業税	13,547	15,245
法人税等調整額	△ 2,647	△ 2,873
中間純利益	20,270	19,185
前期繰越利益	21,336	22,854
中間未処分利益	41,606	42,040

## 配当金について

当社の財務状況、中間期業績及び通期の業績予想などを踏まえ、株主還元を重視する立場から総合的に勘案いたしました結果、当期の中間配当金は、1株につき7円50銭（前中間期比2円50銭の増配）とし、平成16年12月6日を支払開始日とさせていただきます。

年間配当金は、1株につき15円（前期比5円の増配）とさせていただきます予定です。



# 「物流ソリューションの創造による NYK Logisticsの進化」

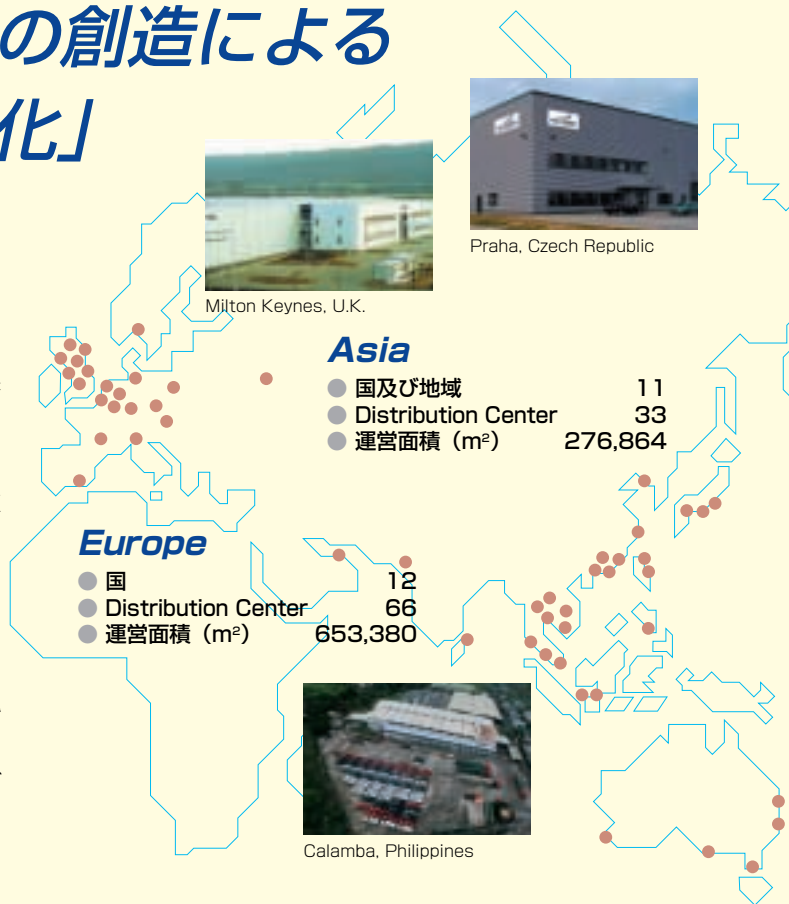
私たちは、物流ソリューションを提供します。

モノは必要とされないところに存在しても本来の価値を発揮しません。海を越え、空を越え、陸を越えて、時に保管され、製造ラインに載せられ、加工され、配送センターや小売店に納入され、最終的にあるべき場所にあるべきタイミングで存在することによって、初めてそのモノの価値が完成します。お客様にとっての物流とは、まさにモノの価値を最大化するためのサプライチェーンやデマンドチェーンですが、これを思いどおりにコントロールすることは非常に困難かつ複雑な作業です。NYK Logisticsは、このようなモノ運びチェーンという多種多様な物流ニーズを具現化するための解決策（ソリューション）を提供しています。

現在では、自動車部品・完成車物流、リテラーと呼ばれる小売業の物流、電気製品やその他消費財の部品・製品物流、さらにハイテク機器から化粧品、化学品や医薬品の物流まで、幅広いサービスを整えています。

NYK Logisticsは、世界を跨ぐ海上輸送網、航空輸送網、そして陸上輸送網を備えています。さらに世界30の国及び地域に140ヶ所以上の物流倉庫・拠点を構え、これらのネットワークをベースにモノ運びチェーンを支えるITシステムを構築しています。

私たちの物流サービスは、まずお客様のニーズを追求することから始まります。その上で、NYK Logisticsのグローバルネットワークと高度なITシステムを組み合わせ、そ



れぞれのニーズに適合したソリューションを構築します。

どの拠点をつないで、どのような機能を実現するかは、お客様のニーズ次第、すなわちテーラーメイドのソリューションです。お客様のニーズを適確に把握し、最高のソリューションを提供することで、私たちNYK Logisticsも進化を続けます。



## NYK Logistics Group

### ● Japan

Japan	NYK Logistics (Japan)
-------	-----------------------

### ● Asia

China	NYK Logistics (China)
Hong Kong	NYK Logistics (Hong Kong)
Taiwan	NYK Logistics (Taiwan)
Thailand	NYK Logistics (Thailand)
Malaysia	TASCO
Singapore	NYK Logistics (Singapore)
Indonesia	PT. New Wave Logistics (Indonesia) PT. NYK Puninar Logistics (Indonesia)
Philippines	NYK Logistics (Philippines)
Sri Lanka	NYK Logistics & Kusuhara Lanka
U.A.E.	NYK Logistics (Middle East)
India	NYK Logistics (India)

### ● Oceania

Australia	NYK Logistics (Australia)
New Zealand	NYK Logistics (New Zealand)

### ● Americas

U.S.A.	NYK Logistics (Americas)
Canada	NYK Logistics (Canada)
Brazil	NYK Logistics do Brasil
Mexico	NYK Logistics de Mexico

### ● Europe

U.K.	NYK Logistics (Europe) NYK Logistics (UK) —Consumer & Retail —Manufacturing & Retail
France	NYK Logistics (France)
Sweden	NYK Logistics (Scandinavia)
Germany	NYK Logistics (Deutschland)
Hungary	NYK Logistics (Hungary)
Belgium	NYK Logistics (Belgium)
Spain	NYK Logistics (Iberica)
Italy	NYK Logistics (Italy)
Netherlands	NYK Logistics (Nederland) NYK Logistics (Edam)
Czech Republic	NYK Logistics (Czech Republic)
Poland	NYK Logistics (Polska)
Russia	NYK Logistics (CIS)

<b>Distribution Center総数</b>	<b>146</b>
<b>総運営面積</b>	<b>1,522,294m<sup>2</sup></b>

(2004年6月現在)

\* この他に、当社連結子会社の郵船航空サービス株式会社もグローバルネットワークを構築し、フォワーディングやロジスティクスサービスを提供しております。

# 取締役及び監査役並びに経営委員 (平成16年9月30日現在)

## 取締役会長経営委員



草刈 隆郎\*

## 取締役社長経営委員



宮原 耕治\*

## 取締役副社長経営委員



間宮 忠敏\*



石田 忠正\*

## 専務取締役経営委員



小澤 幸夫\*



宇佐美皓司\*



萬治 隆生\*

## 常務取締役経営委員

田宮 道雄	山脇 康
太田 隆博	青木 功一
倉本 博光	佐藤 実
工藤 泰三	井上 幸一
杉浦 哲	

## 取締役経営委員

青山 正裕

## 監査役 (常勤)

成定 龍二 神谷 一平

## 監査役 (非常勤、社外監査役)

北島 敬介 宮崎 毅

## 経営委員

清水 裕幸	安永 豊
山田 次男	菊池 晋
井川 元雄	諸岡 正道
高畑 尚紀	五十嵐 誠
村田 良治	片山 真人
加藤 正博	宝納 英紀
仙波 雄二	

## 経営委員 (社外経営委員)

庄司洸一郎	小林 進二
大槻 哲史	松永 武士
榎岡 孝武	大山 愿太

\*印は代表取締役を示しています。

## 株式の状況 (平成16年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	2,983,550,000株
発行済株式総数	1,230,188,073株
自己株式	
1.当中間期における取得株式	255,183株
単元未満株式の買受け	255,183株
2.保有自己株式	8,823,754株
株主数	118,153名
大株主 (上位10名)	所有株式数
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	118,962,000株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	106,699,000株
東京海上火災保険株式会社	56,825,616株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 三菱重工業株式会社口・退職給付信託口	54,717,149株
明治安田生命保険相互会社	38,899,138株
株式会社東京三菱銀行	36,978,337株
株式会社みずほコーポレート銀行	35,067,550株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	16,086,623株
ドイッチェバンク アーゲー フランクフルト	14,661,000株
資産管理サービス信託銀行株式会社信託B口	13,708,000株

## 会社の現況 (平成16年9月30日現在)

商号	日本郵船株式会社 Nippon Yusen Kabushiki Kaisha (NYK Line)
本店	〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 電話 03-3284-5151(代表)
創立	明治18年(1885年)9月29日(創業:同年10月1日)
資本金	88,531,033,730円
上場取引所	東京(第一部)、大阪(第一部)、名古屋(第一部)、 フランクフルト
従業員数	1,732名(陸上:1,275名、海上:457名) (出向者を含んでいます。)
会計監査人	中央青山監査法人

※本報告書の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

## ■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
同総会権利行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日

### 基準日

上記確定日のほか、必要あるときは予め公告のうえ基準日を定めます。

### 公告掲載新聞

日本経済新聞

決算公告に代えて、貸借対照表及び損益計算書を当社ウェブサイトの次のアドレスに掲載しています。

<http://www.nykline.co.jp/koukoku>

### 名義書換代理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱信託銀行株式会社 証券代行部

(連絡先) 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

三菱信託銀行株式会社 証券代行部

テレホンセンター 0120-707-696 (フリーダイヤル)

**同取次所** 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

### 単元未満株式の買取請求

単元未満株式(1,000株未満)の買取請求は、左記の名義書換代理人事務取扱場所または同取次所にて受け付けています。株式の保管振替制度を利用して預託された単元未満株式の買取請求は、預託窓口の証券会社を通じてお申し出ください。

### 喪失された株券の再発行申請について

商法改正により昨年4月から株券失効制度が創設されました。株券を喪失された株主の方は、従来の公示催告手続きを経る除権判決に代えて、所定の株券喪失登録の手続きをとることで、株券の再発行を請求することができます。詳しくは左記の名義書換代理人事務取扱連絡先までお問い合わせください。

### 手続関係用紙の請求

「住所変更届」、「単元未満株式買取請求書」、「配当金振込指定書」、「ご相続手続き依頼書」等のご請求は、名義書換代理人のテレホン自動音声応答サービス0120-86-4490(フリーダイヤル)にて24時間承ります。

株式の保管振替制度を利用して株券を預託されている方の住所変更等は、預託窓口の証券会社へお申し出ください。



**NYK LINE**  
NIPPON YUSEN KAISHA

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号

電話 03-3284-5151(代表)

<http://www.nykline.co.jp>

**R100**  
古紙配合率100%再生紙を  
使用しています。